

# 登山・登攀の記録

## 北アルプス 裏銀座縦走(烏帽子岳～双六岳～弓折岳)

日時:1986年3月20日～3月30日

メンバー:CL 佐藤肇、高岸且

**概要:**当初、この計画は北アルプス船窪岳～烏帽子岳をメインとして縦走し、その勢いで裏銀座を縦走するというのが目的であった。しかし、松浦の傷が治らず佐藤、高岸の2名で春山を満喫するという目的のもとに前半をカットし、裏銀座縦走に変更して実施した。76年に一度、地球に大接近する「ハレー彗星」を見るというオプションもあった。日程にも余裕があり、積雪期の北アルプスの山旅を満喫できた。

### 記録

3月19日 「きたぐに」にて離洛

3月20日 雪

大町(9:30)―(TAXI)―葛温泉(10:25)―濁沢出合(13:50)

小雪の降る中、葛温泉を出発しトンネルに差し掛かった所でフィルムを買い忘れたことに気付き、葛温泉まで買いに戻る。七倉で登山届を提出し、東京電力の道をひたすら歩く。ダム下で昼食の後、吊橋渡った所で幕営する。

3月21日 晴

サイト地(6:50)―三角点(13:20)―烏帽子小屋(16:00)

昨日から晴れ始め、朝には青空が広がっている。ブナ立尾根の始めの1時間は割と新しいトレースをたどり、快適なペースで進む。その後、トレースを見失い、落とし穴に時々はまるようになる。昼頃、三角点に着き、烏帽子小屋まで行くことに決定する。この辺りから佐藤がバテ始めるが、何とか小屋まで上がった。

3月22日 晴れ 後曇

小屋(6:50)―烏帽子岳(8:30)―小屋(10:00)

早朝(3:00)ブナ立尾根の頭まで登り、ハレー彗星を見に行く。空はよく晴れて、撮影に成功した。

低気圧が接近しているが、烏帽子岳のアタックの時間は天候がもつと判断して出発する。頂上直下は3ピッチのスタカットで登る。富山県側の空が次第に白くなってくる。午後、尾根で昼寝をする。昨日に続き小屋に泊まる。

3月23日 吹雪

沈殿。台風並みの低気圧の接近のため吹雪。

3月24日 吹雪

沈殿 低気圧の通過で終日吹雪。

3月25日 快晴

小屋(7:00)―三ツ岳(8:30)―野口五郎岳(12:00)―東沢乗越(13:45)―水晶小屋(14:55)

冬山JOYの日がやって来る。風は強いが天気は良いので快調なペースで飛ばす。野口五郎岳で大休止の後、水晶小屋を目指す。野口五郎岳の東沢側は広大な真っ白な斜面で、スキーでは相当快適そうである。水晶小屋直下の岩稜は見た目よりはひどくなく、一気に小屋まで上がる。水晶小屋南側下部の平坦地で止まる予定であったが、景色がよいので小屋前の広場でテントを張る。

3月26日 快晴

水晶小屋(7:20)―鷲羽岳(9:20)―三俣山荘(10:40)

本日もピーカン。雲の平は感動する程に真っ白な台地だ。一度は積雪期に入ってみたい。難なく鷲羽岳の山頂に着く。次は長い長い下りがある。最後にひと登りして三俣小屋に着く。もう一日天気もちそうなのと、三俣蓮華の登りが辛そうなことから半沈を決め込む。シュラフを干し、屋根で昼寝をする。

3月27日 晴れ

三俣小屋(7:10)―三俣蓮華岳(8:20)―双六岳(9:45)―双六小屋(10:30)

風は若干強い。三俣蓮華岳の登りは真っ白な大斜面。朝のためか足がほとんどもぐらない。もっと辛いことを予想していただけに拍子抜けである。

## 登山・登攀の記録

---

途中から北稜に入り、1時間余りで登ってしまう。  
双六岳の山頂を踏み、小屋へはシリセードとキックステップで気持ち良く下る。そのまま下山するのはもったいないので沈殿覚悟でテントを張る。

3月28日 吹雪

沈殿。低気圧の接近、通過の貯め吹雪。

3月29日 曇

双六小屋(8:35)－弓折岳－弓折岳直下平坦地(12:05)

朝起きると風と雪はやんでいる。積雪 20cm。やけに生暖かい。気温が高いのでズボズボ足がはまる。先頭を交代しながら進む。稜線にでると槍穂高が見える。弓折岳を下り始め鏡平まであと2/3という所でガスが上がって来て一瞬の間にホワイトアウトとなり、待機する。その後もガスは上がったたり下がったりで 14:00 ここに泊まることに決める。

3月30日 晴 後 曇

サイト地(5:55)－鏡平南端(6:25)－ワサビ平(8:20)－新穂高温泉(10:40)

夜になって気温が下がり、雪は昨日と打って変わって良くしまっている。シリセードで一気に鏡平に着く。弓折南稜は快適にグリセードで飛ばす。途中、佐藤がギャップで飛ばされ、ブナの大木にぶつかるとうアクシデントがあるが事なきを得て、再び秩父沢までグリセード。林道を歩くこと2時間半で新穂高温泉に下山する。

(記／佐藤・高岸)